

大谷大学白書
—その実態—

知進守退

1997

大谷大学
大谷大学短期大学部



凡 例

〈収録の範囲〉

- ・本報告書は、大谷大学・大谷大学大学院・大谷大学短期大学部の主要事項について対象とした。
- ・対象とした期間は、主として1991（平成3）年4月1日から1996年3月31日までの5年間の主要事項とした。
- ・本文中の引用資料は、全体を1列下げ、〈 〉で表題を示し、文末の（ ）内に、執筆者・出典・発行年等を記載した。

〈掲載の原則〉

- ・本文中のデータは、特に明記しない限り、原則として1995（平成7）年度現在で記載した。
- ・原則として年度の標記は西暦と元号を併せもちいた。

〈教員一覧の記載〉

- ・掲載対象は、1996（平成8）年3月31日時点に在職するすべての教育職員とした。
- ・事項の配列は、氏名、氏名読み（カナ）、所属/職、学位、生年月日/性別、出身大学、最終学歴、専門分野、所属学会、最近の業績、主な業績、キーワード、社会活動とした。

「学位」

博士の学位のみ記載した。

「所属学会」

所属学会は主なものを記載した。

「最近の業績」「主な業績」

著書・論文について5点以内、および作品発表等5件以内で代表的なものを記載した。

「キーワード」

専門分野、研究内容を最もよく表す用語を最大5件まで表記した。

「社会活動」

公的な団体より委嘱された活動および、社会一般に対して行うボランティア活動について記載した。なお、学外での講座の講師等の活動は省略した。

はじめに

大谷大学は、1665（寛文5）年、京都東六条に開創された東本願寺の学寮をその前身としており、その後幾たびかの名称・制度の変遷を経て現在に至っている。その間、1901（明治34）年、学制に根本的改革を加え、近代的文科大学となったのである。初代学長となった清沢満之は、その開学式典に際し、「本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、殊に仏教の中において浄土真宗の学場であります。」と述べている。この初代学長清沢満之の言葉はそのままに受け継がれ、大谷大学は独自の歩みを重ねてきた。ことに、戦後多くの大学が総合大学化してゆく中で、かたくなとも言えるほどに文学部のみ単科大学であることを守り続けてきた。それは、本学が建学の理念としてきた「自己の信念の確立」の実現を問い続ける時、大学としては小規模であることに有効性を見てきた先人たちの選択であったのである。

本学は、そのように「他の学校とは異なりまして」と名告って以来、星霜を重ね、21世紀には、近代化100周年を迎えようとしている。その100年におよぶ間、常に教育・研究の充実をめざすとともに、第3代学長佐々木月樵が大学の目的を仏教の解放と示したことを承け、僧侶養成の機関としての大学から、広く一般社会へと開かれた大学への歩みを続けてきたのである。これら大学の理念実現のために幾多の努力を重ねてきたが、ことに近年にいたって大学改革のためいくつかの変革を行ってきた。短期大学部国文科を文化学科へ改組、文学部国際文化学科の設置、設置基準の大綱化に伴うカリキュラム改革、臨時定員の設定、国際交流の強化、大学開放の促進、事務組織の改編などがそれである。

一方、大学の社会的責務が、文化の正しい継承と、新しい文化の創造であり、その社会への還元であることを考える時、大学の歩みは、独善的で排他的なもので無かったかを、常に検証してゆかねばならないこと勿論である。しかし、とかく大学は学問の独立性を大切にするあまり、社会的な要請に眼を向けること少なく、変革の努力を怠りがちであったとの指摘も、あながち正鵠をはずれてはいないと言うべきであろう。大学設置基準に「自己点検・自己評価」をなすべきことが定められたことも、そのこととは無縁ではあるまい。

本学もまた、大学の在り方は適切であったのか、個々の方策は正しかったのかなど、常に従来のある方を点検し、未来を見通して検討すべきことは多い。この意味において近年の大学の動きを検証するものとして編纂したのが本書である。

大学の正門横には、真宗大学と称した時以来の、曇鸞大師『浄土論註』より採られた「知進守退」と刻んだ石碑がある。先師の講判に、「衆生済度ノ俗諦ヲ知ル後得智ユエ進テ衆生済度ヲ知リ退テ二乗ノ心ニナラヌヤウニ守ルコト」と解されている。「進むを知って退くるより守る」と訓ずるのであろう。今、大学のさらなる充実をめざして、来し方の活動を総括しようとする白書の名称とする所以である。

大谷大学長

訓 覇 曄 雄

目 次

はじめに	i
第I章 建学の精神	1
第1節 建学の理念	1
1. 理念の確立	1
2. 理念の継承	4
第2節 伝統を踏まえて	11
1. 大谷大学の歴史	11
(1) 大谷大学略年表	11
(2) 大谷大学変遷の概説	12
(3) 大谷大学としての歩み	12
2. 歴史の検証	17
3. 新学科開設の意義	19
(1) 文学部 国際文化学科	19
(2) 短期大学部 文化学科	20
4. 人間学の総合大学として	21
第3節 建学の理念の確認と具体化	23
1. 印刷物の配布	23
2. 施設への配慮	23
3. 宗教行事への配慮	24
4. 真宗総合研究所	26
5. 刊行物	33
第II章 使命の果遂	35
第1節 組織	35
1. 組織の概要	35
(1) 真宗大谷学園	35
(2) 大谷大学教学組織	35
(3) 大谷大学管理運営組織	36
(4) 学生会組織	37
(5) 大学概況	37
入学定員・収容定員及びその推移	37
学生数及びその推移（グラフ）	39
教職員数	40
2. 学園理事・監事	40
3. 名誉教授	41
4. 教員一覧	42
5. 附属幼稚園教員	96
第2節 研究の充実	99
1. 総合研究体制の内実化	99
2. 研究の実状	99
(1) 大谷大学	99
(2) 大学院	110
(3) 短期大学部	117

(4) 学会の組織	121
(5) 学位	122
(6) 研究成果の公開	123
(7) 科学研究費による研究	124
(8) 在外研究	125
3. 特別研修員制度	125
第3節 教育活動	131
1. カリキュラムの大綱化	131
2. 開講科目	140
(1) カリキュラム改編に伴う新しい科目区分	140
(2) シラバス（『授業概要』）の導入	141
(3) 大学院における科目区分	141
(4) 開講科目一覧	142
3. 語学教育	176
4. 教育活動の多様化	178
(1) 教育機器の導入	178
(2) 語学教育の充実	179
(3) 国際交流の充実	179
(4) その他	180
5. 学生研究室の整備	180
6. 研究・学習成果の確認	181
(1) 研究成果としての修士論文・卒業論文	181
(2) 卒業研究の作成	181
(3) 成果の公表	182
7. 研修員制度	185
第4節 学生生活	190
1. 学生生活	190
(1) 指導教員制度の運用と学習指導体制	190
(2) 教員と学生の触れ合い	190
(3) 学籍異動	190
(4) 奨学金制度の充実	194
(5) 学生の健康保持	196
(6) 学生相談室	199
(7) 学生関連施設	203
(8) 大学主催イベント	203
(9) 海外研修	211
(10) 就職・進学への支援	213
(11) 学寮	219
(12) 短期貸付金制度	220
(13) 被災学生への支援	222
2. 学生の活動	224
(1) 学生会の活動	224
(2) クラブ活動	225
第5節 資格の取得	227
1. 本学に開設される資格取得課程の種類	227
2. 年度別資格取得者	242

第Ⅲ章 開かれた大学として	247
第1節 学術交流センター	247
第2節 大学開放	250
1. 科目等履修生・聴講生制度	250
2. 大学の講座	251
3. 学外公開講座	254
4. 京都・大学センターへの参加	256
5. 大学施設の開放	259
6. 学会の開催	260
第3節 国際交流の推進	263
1. 国際交流の理念と推進方策	263
2. 留学生の受け入れ	263
3. 国際交流科目の開設	266
4. 大学院特別セミナーの開講	270
第4節 情報化社会への対応	272
1. 情報センター構想	272
2. 学内 LAN の敷設	273
3. 情報処理教育の開設	273
4. 情報の発信・受信	274
第Ⅳ章 理念確立のために	275
第1節 仏教による総合化—真宗総合研究所—	275
1. 研究活動	275
2. 公開講座	285
3. 出版活動	288
4. 研究者の受け入れ	289
第2節 人間解放—同和教育資料室—	291
1. 同和教育委員会	292
2. 同和・人権問題に関する開講科目	294
3. 私立大学人権問題懇話会	295
4. 人権問題相談	296
5. その他—新入生を対象としたクラス別同和問題学習会—	296
第3節 情報の蓄積と公開—図書館—	297
1. 蔵書概況	297
2. 展覧活動	298
3. 出版活動	300
4. 図書館概況	301
5. UCLA 東洋図書館との交流	303
第Ⅴ章 基盤強化のために	305
第1節 管理・運営	305
1. 学長	305
2. 学監制度	305
3. 部・館長制度	306
第2節 運営の組織	308
1. 教授会	308
2. 大学院委員会	308

3.	協議委員会	309
4.	学園整備総合企画委員会	309
5.	その他の委員会	310
第3節	事務局	311
1.	組織改編の理念	311
2.	事務電算化への取り組み	311
第4節	教職員	313
1.	教職員の構成	313
2.	給与	315
3.	研修	316
4.	福利厚生	318
第5節	校地および施設・設備	320
1.	校地	320
2.	校舎	320
3.	情報化への対応設備	323
第6節	財務状況	324
1.	財政の状況	324
2.	今後の財政運営	329
3.	教育振興資金の募集	329
第7節	広報活動	330
第8節	同窓会・教育後援会	333
第9節	関係学校との連携	334
1.	法人設置学校	334
2.	関係学校	335
第10節	学外団体との連携	336
1.	大学連合機関	336
2.	学会活動	338
第Ⅵ章	学生の受け入れ	341
第1節	入試センター	341
第2節	入試広報活動	342
1.	主に生徒を対象とした取り組み	342
2.	主に教員を対象とした取り組み	343
3.	出版物に関する取り組み	344
4.	その他	344
第3節	入学制度	345
1.	指定校制推薦入学制度	345
2.	公募制推薦入学試験	345
3.	一般入学試験	345
第4節	編入学制度	354
1.	文学部3回生推薦編入学制度	354
2.	文学部3回生一般編入学試験	355
第5節	大学院入学制度	357
1.	一般入学試験	357
2.	外国人留学生入学試験	358
おわりに		359